

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

鷹取中学校区	校番 4	福山市立鷹取学校
最終更新日		2019年(平成31年)2月20日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- めざす子ども像がよく分かった。
- 重点目標としての取組みがよくわかったが、課題を焦点化した内容にしていこう。

児童生徒の現状				
		霞小	光小	鷹取中
県Ⅱ	国	+8.0	+5.5	+9.6
	数	+11.3	+6.6	+6.7
	理	+3.6	-7.5	+5.1
国B	英			+11.0
	国	+6.0	+2.0	-3.0
	数	+5.0	+1.0	0

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能	課題発見・解決力	主体性
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けている。	問いをみつけ、見通しをもちながら調べたことをもとに自分の考えを持ち、仲間と話し合い、よりよい考えを見つけ、次の学習につなげることができる。	すべての学習や活動に主体的・協働的に取り組むとともに、仲間と互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとしている。
中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○課題発見解決学習 ○小中合同挨拶運動 ○部活動体験、オフスクール ○生徒会児童会交流 ○トークショー、ノーメディアデー ○鷹取中学校区スタンダード 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時 ・毎月2回、登校時に小中学校校門前等で校区教員があいさつ ・夏季休業中に小学生が中学校の部活動を1日体験 ・生徒会役員と児童会役員があいさつ運動等について意見交流、体育大会参加 ・毎月1回、家庭でテレビ等を見ない日、テーマを決めて親子で会話する日を設定 ・家で5つのめあてを決めて中学校区の保護者にパンフレット配付 	

III 自校

ミッション
霞小・光小と連携して「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成を図ることを通して、地域に誇れる学校を創造する。

学校教育目標
夢や目標に向かって仲間とともに主体的に学び、未来を創造できる生徒の育成

現 状						
<生徒>			<授業>			
○「基礎・基本」定着状況調査 県差 ○17(H29)2学期授業アンケート						
	H27	H28	H29	質問	「よくあてはまる」と回答した生徒の割合(%)	
国語	-1.8	-1.0		調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめている。	H28	H29
数学	-2.1	0.3			29.2	22.5
理科	-5.6	2.0		課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしている。	29.9	19.7
英語	-5.2	-0.4			課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えている。	30.3
○全国学力・学習状況調査 全国差						
	A	B	A	B	A	B
国語	-1.9	-2.8	-2.1	-0.1	-1.0	-3.0
数学	-8.7	-5	-6.4	-6.1	+1.0	0
理科	-8.5					
学力調査結果が県・国を下回ることもある						
課題発見解決学習が日々の授業での実施が不十分である。						

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能	課題発見・解決力	主体性
めざす子ども像	課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けている。	問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、結果を予測しながら実行したり、調査して得た情報を元に自分の考えを形成・表現したりするとともに、仲間と互いの考えを伝え合うことで多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりすることなどをとおして課題解決したことを、次の課題発見・解決につなげていくことができる。	すべての学習や活動に主体的・協働的に取り組むとともに、仲間と互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとしている。
研究	教科等	全教科・総合的な学習の時間	
	主題・内容等	主体的に問い続ける生徒の育成 ～論理的思考を基盤とした課題発見・解決学習の推進～	
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹取中学校版「学びの足跡」を用いて、わかったこと、わからないことを自分自身が理解し、次時の授業での自分自身の課題を設定している。 ・前時の振り返りをもとに、生徒が自ら課題やルーブリックを設定している。 ・知識・技能の習得、さらに発展的な問題に挑戦することで学びを確かなものになっている。 ・個人思考から対話をとおして集団思考へ導いている。 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立鷹取中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	□達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況	□達成評価	総合評価	改善方策		
2	課題発見・解決学習を通じた確かな学力の育成 (教育研究部) ※光小	★	見直し	・全国学力・学習状況調査B問題正答率6割以上の児童・生徒(50%以上) ・CRT5教科平均点(全国平均以上) ・課題発見・解決学習実施率(85%以上)	【校区共通】 ・課題発見・解決学習の合同研究授業 ・学力調査分析 【本校】 ・全授業者による論理的思考を基盤とする課題発見・解決学習に係る授業計画の作成、実施	・国の学力調査 ・CRT	・全国学力B問題正答率6割以上 国語B 55.4% 数学B 30.7% 理科 67.7% ・CRTは2月実施予定 ・課題発見・解決実施率88.8%	3	3	・授業で学習したことが理解できているかどうか、また、自力解決できるかどうかを把握するために、授業の終末に活用問題を実施する。	・全国学力B問題正答率6割以上 国語B 55.4% 数学B 30.7% 理科 67.7% ・CRT()は全国 国語66.0(64.7)+1.3 社会65.5(64.5)+1.1 数学59.7(59.5)+0.2 理科65.1(67.1)-2.0 英語67.9(63.7)+4.1 ・課題発見・解決実施率88.8%	3	3	3	・確かな学力の育成のため、鷹取中学校授業スタイルの各教科版を作成し、生徒と共有し、子ども主体の学びを創造する。また、単元テスト等を取り入れ、生徒のつまずきを把握する。
2	異年齢交流活動を通じた豊かな心の育成 (交流活動推進部) ※鷹取中		見直し	①近所の人や家の人にあいさつをする児童・生徒(85%以上) ②人が困っている時は進んで助ける児童・生徒(85%以上) ③人の役に立ちたいと思う児童・生徒(85%以上)	【校区共通】 ・小中合同あいさつ運動 ・部活動体験 ・生徒会児童会交流 ・オープンスクール	・県、国の学力調査	【肯定的評価】 ①あいさつ91.7% ②助ける90.3% ③役に立ちたい93.6%	3	4	・おおむね達成できている。今後もあらゆる学校生活の場面で生徒に啓発していく。	【肯定的評価】 ①あいさつ90.2% ②助ける89.8% ③役に立つ94.0%	4	4	4	・ボランティア精神の育成を図るために、生徒会を中心に生徒主体の活動を促す。 ・小中合同あいさつ運動を交流活動推進部を中心に改善を図り、来年度につなげていく。
2	地域・保護者との連携等を通じた地域を愛する心の育成 (ふるさと学習推進部) ※鷹取中		見直し	①自分の地域が好きな児童・生徒(80%以上) ②地域や社会で起こっている出来事に関心がある児童・生徒(80%以上)	【校区共通】 ・ESDを踏まえたふるさと学習カリキュラムの改善	・県、国の学力調査	【肯定的評価】 ①地域が好き78.7% ②出来事に関心76.9%	3	2	・総合的な学習の時間を中心に地域で起こっている出来事を生徒自身に考えさせたり、地域発信の便り等を午後の学活等で生徒に紹介する。3年生を中心に地域の方との交流の場を設定する。	【肯定的評価】 ①地域が好き76.7% ②出来事に関心80.9%	3	3	3	・学年を経るごとにアンケート数値の低下が見られた。地域の様々な大人の語りかけたりすることを通じて、生徒自身が現在の自分を見直し、自分の生き方について深く考える場を今後も設定していく。
2	健やかな体の育成 (体力健康部) ※霞小		見直し	・新体力テスト県平均以上の種目(80%以上)	【校区共通】 ・体力テスト分析 ・トークデー、ノーマディアデー ・校区スタンダード改善 【本校】 ・課題発見・解決型の体育授業の実施	・新体力テスト	・新体力テストにおいて男女全ての種目で県平均値を上回った。(達成率100%)	5	5	・達成できている。生徒自身が課題を設定し、その解決に向けて主体的に学習を進める授業を推進する。	・新体力テストにおいて男女全ての種目で県平均値を上回った。(達成率100%)	5	5	5	・達成できている。来年度に向けて、現在は、生徒主体の学びに向けて、探究的な学習スタイルを実施している。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。